

令和5年度第1回滋賀県総合教育会議(次期教育大綱関係)の結果について(報告)

令和5年度第1回滋賀県総合教育会議において、次期「滋賀の教育大綱」について協議を行った。

日時 令和5年5月12日(金) 15:00-16:40

場所 滋賀県庁東館7階大会議室

出席者 三日月知事、大杉副知事、福永教育長、土井委員、野村委員、石井委員(web)、  
塚本委員

議 事

I 次期「滋賀の教育大綱」について

次期「滋賀の教育大綱」素案ver2.0をもとに、策定に向けた協議が行われた。

II 滋賀県子ども政策推進本部の設置および活動状況について(報告)

【議事 I における出席者からの主な意見】

(1) 計画内容について

- ① “三方よし”は、思いの違う他者を理解し、お互いのため、全体のためになるように考えていくことを通じて、信頼を形成するという教えである。各施策で多様な、弱い立場の人たちについてしっかり理解をし、共生していくことにつなげてほしい。
- ② 他者との関わりの中で自分を見つめ、自己を確立していくことは大切であるが、不登校のように、他者との関わりにしんどい思いを持つ子もいる。そうした子どもたちには、“三方よし”は“売り手”すなわち自分をまず大事にという視点を伝えることが重要である。
- ③ “三方よし”に関して、近江商人の商売道の光の部分だけでなく、影の部分も率直に考えていく視点が大事。また、近江商人の発展について仏教の影響を指摘する論調もあるが、宗教的情操についてどう考えるのが良いか議論してみたい。
- ④ “子どもの最善の利益”については、誰がその利益を考えるのかという問題がある。子どもの自立の観点からは大人が考えるものではないという捉え方の一方、“これはあなたのためにならない”という対応も大事。どちらか一方のみが良いというのではなく、両立が図られるための調整が重要となる。
- ⑤ 子どもの運動能力が低下傾向にある中で、国スポの機会をうまく活用して機運を盛り上げていくのは良いことである。
- ⑥ 幼児は集団で遊ぶなどして刺激を受け、成長してゆく。児童福祉施設や地域とも一緒になり、幼児が小学校に上がるまでを支えていくことが重要。“学びを円滑につなげる”は大切にしてほしい。
- ⑦ 不登校が急増傾向にある中で、子どもの不登校が心配される御家庭に対して、オリエンテーションに類するような工夫も考えられるのではないかと思う。

## (2)目標設定について

- ① 「豊かな心の育成」は、基本目標にも直結するものである。子どもたちに普遍的な価値観を醸成することが求められる中、「豊かな心の育成」については、もっとこれ以外にも目指すところが考えられるのではないか。
- ② 体験活動の推進の目標は今回はこれで良いと思うが、次の段階として、滋賀の強みとして体験活動の効果を表すことができないか研究していきたい。
- ③ 部活動については、運営体制のブラッシュアップを目指す方向性で検討してはどうか。「幼児教育・保育」のように、どのフェーズにあるかのような捉え方はできないか。
- ④ 部活動の目標「…指導を受けている生徒数の増加」を果たすためには、地域やスポーツクラブの関与が必要となる。どれだけ地域に移行されてきたのかとか、どれだけ市町が取り組むようになっているのかなどが大切なのではないか。
- ⑤ 働き方改革の推進に関する目標として、教員の時間外在校等時間の減少を掲げているが、持ち帰り残業の時間が増えてしまうことのないように留意する必要がある。
- ⑥ 教育DXの目標は、当面はこれで良いと思うが、次の段階としては、質的な深まりを目指すことになるのではないか。G7教育大臣会合では、リアルとデジタルを融合した教育の促進や、生成系AIとの向き合い方についても議論されているが、どのような教育の姿を目指すのか、質的な検討もしていくことになるのではないか。
- ⑦ 学校施設の整備と私学教育の振興については、目標が掲げられていないが、私学の振興については、保護者負担や世帯負担を軽減する視点から目標を設定することもできるのではないか。
- ⑧ 特別支援教育に関しては、個別の教育支援・指導計画の活用は重要であるが、特別支援学校数とか、個別の計画の完全作成など、果敢に目標を設定することも考えられるのではないか。